

平成 24 年 1 月 16 日
日 本 保 全 学 会

全米技術アカデミー会員 Chapin 氏 日本保全学会 第 12 回保全セミナーで講演予定

日本保全学会では、来る 1 月 31 日（火）、東京大学 武田先端知ビルで保全セミナーを開催する。今回のテーマは福島原発事故の分析評価や今後の展望等。その中で、今回は、全米技術アカデミー会員、全米原子力学会フェロー、元米国 MPR 社役員の Chapin 氏が海外の専門家の立場から福島原発事故をどう見ているか、講演する。講演の概要は、・・・。

- (1) 福島原発事故の特徴
- (2) 日本が実行した事故対応の特徴、その長所（強み）と短所（弱点）
- (3) 短所（弱点）は
 - 主要リスクへの取り組みの失敗
 - 緊急時への備えの失敗
 - 迫りくる事象に対応するための発電所以内設備と実施訓練の失敗
 - 国民、国際社会、そして重要事項決定者への情報提供の失敗
- (4) 規制当局、日本国政府、および産業界が犯した失敗が日本の原子力産業に「死のスパイラル」もたらしつつある。
- (5) 今後早急を実施すべき事項の提案
 - 日本の原子力発電再生計画の決定前における全面的、効果的な国際組織の参加
 - 運転再開のための検査とその結果に基づく早期運転再開のための国際的運転再開チームの結成と参加
 - その他
- (6) 福島原発事故、それへの対応、悪化しつつある状況に対して、緊急の対応と日本への支援が必要となっている。

詳しくは、下記 URL にアクセスしてご覧ください。

<http://www.jsm.or.jp/jsm/mt/seminar12.html>